

1. 設計競技

1.1. テーマ

「未来へつなぐ防災まちづくりデザイン」

2011年3月11日の大震災は、私たちに防災と『まち』との関係を見直すきっかけを与えた。特に我が国では、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地震、津波、噴火など多くの災害に見舞われている。

防災施設は人々の生命を守り、『まち』に安全をもたらす欠かせない存在である。一方で、防災にのみ重きを置いた計画は、巨大な防災構造物を生み、『まち』の景観や暮らしを壊しかねない。

防災施設がその役割を果たす期間はわずかだが、それ以外の大半の期間において防災施設は人々の『まち』での生活の中にある。防災は『まち』をつくり上げる要素の1つであり、日常生活に寄り添うべきである。

防災と日常生活…この二律背反とも言える関係をデザインの力で変えることができないのであろうか。防災を考えた『まち』であっても、より日常生活に結びつくことはできるはずだ。

そこで、未来へつなぐ防災と『まち』の新しい関係を社会へ広く提起してほしい。

1.2. 設計条件

自然災害を防ぐ機能と同時に新しい自然との付き合い方を引き出せるような、まちづくりデザインを提案すること。

ただし、以下の点に留意すること。

- ・ 対象にする自然災害は自由に選択してよい。
- ・ 対象にする場所は実際に存在すること。
- ・ まちと周囲の環境の関わりまで含めた総合的な案を提案してよい。
- ・ 地質調査や構造計算の必要はないが、構造の現実性は確保すること。

1.3. 対象者

- ・ 2013 年 4 月 1 日現在，大学・大学院・高等専門学校・専門学校・高等学校に籍をおく学生，及び経験年数 5 年以下の社会人．グループでの応募可．
- ・ 仙台で行われる公開最終審査会に参加できること．

1.4. 提出物

以下の 3 点を作品提出条件とし，締め切りまでに全てをまとめて提出すること．

1) 設計図面

提案の意図を表現する図面(縮尺自由)および説明文, A1 サイズ(594mm×839mm, 縦横は問わない) のケント紙またはそれに類する厚紙 1 枚に収めること．

2) 設計模型

提案する『まち』が理解できる模型．縮尺は自由だが，模型サイズは $1 \times 1 \times 1 \text{ m}^3$ 以内に収めること．

3) C D

図面データを PDF ファイルに変換し，CD-R にデータを移したもの．ファイル名は代表者名とすること．

1.5. その他

- ・ 応募作品は未発表作品に限る．
- ・ 応募は 1 エントリーにつき 1 作品に限る．
- ・ 1 人につき 1 エントリーに限る．
- ・ 原則，提出物の返却は，指定の期間までに東北大学工学部建築・社会環境工学科まで直接引き取りに来られる場合のみ受け付ける．
- ・ 応募作品の著作権は，応募者に帰属する．
- ・ 主催者および実行委員会は，本設計競技の趣旨の範囲内で著作権者名を明示した上で，懇親会報告書，記者発表資料，作品集，web 等を通じて，応募作品および提案されたアイデア，情報等を公表できるものとする．
- ・ 課題に対する質疑応答は受け付けない．規定外の問題は応募者の自由決定とする．

2. 審査

2.1. 審査員

審査委員長 篠原修
審査員 五十嵐太郎
首藤伸夫
西村浩

(敬称略／五十音順)

2.2. 審査方法

一次審査会を行い，入賞作品（5 点前後）を決定する．後日，公開最終審査会を開催し，入賞した作品の代表者は自らの作品解説を行ってもらい，各賞は，そのプレゼンテーションを踏まえて審査員に決定してもらい，併せて講評などを述べてもらう．

2.3. 賞金

最優秀賞（1 点）：20 万円

優秀賞（1 点）：7 万円

佳作（数点）：3 万円

3. 日程

- ・エントリー受付 平成 25 年 7 月 16 日
- ・エントリー締切 平成 25 年 10 月 11 日
- ・提出締切 平成 25 年 10 月 31 日 必着
- ・一次審査会 平成 25 年 11 月 18 日
- ・公開最終審査会 平成 25 年 12 月 7 日

4. 会場

一次審査会 : 東北大学 青葉山キャンパス

公開最終審査会 : エル・パーク仙台

5. 提出先

〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3-09 東北大学大学院情報科学研究科 4F
景観研究室 景観開花。実行委員会 宛